

令和5年度東京都立西高等学校学校経営報告

自己評価の基準：【A】十分に達成できた【B】概ね達成できた【C】あまり達成できなかった

今年度の教育活動への取組と重点目標	自己評価
<p>1 「授業で勝負」の理念のもと、日常の授業を改善するとともに、生徒の主体的な学習意欲の向上を図る。</p> <p>《方策》</p> <p>①日々の授業を通して、授業を第一に考える生徒を育成する。</p> <p>②「年間授業計画」に基づき、計画的で主体的な学習態度を育成する。</p> <p>③教科マネジメントの確立、研修の充実等により、教科指導力の向上を図る。</p> <p>《重点目標》</p> <p>○「年間授業計画」と改訂した「学習の手引き」の活用指導とその検証</p> <p>○自学自習態度の育成</p> <p>○授業改善に向けて、相互授業見学の実施や生徒による授業評価結果の活用</p> <p>○土曜(教養)講座の充実</p>	<p>[数値目標1] 生徒の「学習への取組みの自己評価」の向上(目標80%)</p> <p>→【C】「学習への取組」に関する学校評価アンケートで、生徒の肯定的な割合は74.2%で、昨年度より3.2ポイント微増した。また、保護者についても、肯定的な割合が昨年度の76.6%から82.0%に増加した。教員については94.9%で昨年度より1.1ポイントと微増した。</p> <p>自宅学習時間は概ね確保されているが、学習への取組に関する自己評価が向上しないのは、生徒が思うような結果が得られていないことに起因すると考えられる。主体的に学習に取り組む姿勢の重要性を継続して指導する必要がある。</p> <p>[数値目標2] 1・2年生の自宅学習時間2時間以上</p> <p>→【B】1年生の自宅学習時間は平均で2時間8分であり、昨年度の2時間3分と比較して微増した。2年生は平均で2時間11分であり、昨年度の2時間10分とほぼ同様であった。今後も継続して課題の出し方の工夫等を行い、自学自習の定着を図る方策について検討する必要がある。</p> <p>[数値目標3] 生徒の授業満足度90%以上</p> <p>→【B】「満足できる授業」に関する学校評価アンケートで、生徒の肯定的な割合は89.8%と昨年度より0.9ポイント微増した。生徒の自由記述から、コロナ禍後で活動型の授業が再開出来るようになったことに起因すると考えられる。</p>
<p>2 学習環境の整備と生活規律の向上を図る。</p> <p>《方策》</p> <p>自覚を促す指導を通して、</p> <p>①感染拡大防止対策の徹底</p> <p>②校内美化の徹底</p> <p>③生徒の自己管理能力の育成</p> <p>《重点目標》</p> <p>○感染拡大防止対策の徹底</p> <p>○生徒の美化意識向上</p> <p>○所有物と時間の自己管理を徹底</p>	<p>[数値目標4] 校内美化に関する学校評価(目標65%以上)</p> <p>→【C】「校内美化の取組」に関する学校評価アンケートで、生徒の肯定的な割合は54.4%で、昨年度の53.6%と比較して微増した。</p> <p>清掃活動にもっと力をいれるべきであるという生徒の意見を大切に、次年度以降も計画的に学習環境の整備に取り組んでいく。</p> <p>[数値目標5] 遅刻者数 月1桁/学級</p> <p>→【B】学年での指導や遅刻指導月間の実施により、今年度も遅刻者数は減少傾向にあるが、遅刻を繰り返す特定の生徒に対して、継続して指導していく。</p> <p>[数値目標6] 遺失物等を減少</p> <p>→【B】生徒の貴重品や私物の管理は、生徒部や学年の指導を通じて改善に努めているが、今後も、ロッカー施錠の励行など、私物管理の徹底などの指導を継続していく。</p>

<p>3 教育公務員としての高い使命感・倫理観をもち、服務規律を遵守するとともに、協働意識を向上させ、ライフ・ワーク・バランスを図る。</p> <p>《方策》</p> <p>①服務規律の徹底 ②情報資産の厳密な管理 ③情報の共有化と会議の効率化 ④分掌・教科等を越えた協働体制の拡充</p> <p>《重点目標》</p> <p>○情報資産の管理体制の遵守 ○計画的な仕事の進め方により、分掌や学年が連携し業務の効率化を推進する。</p>	<p>[数値目標7] 服務事故防止研修の実施 →【A】4月、7月、12月の3回、悉皆の校内研修を実施した。本校の実態に応じた研修内容の充実を図っていく。</p> <p>[数値目標8] 服務事故や服務上の課題ゼロの継続 →【A】企画調整会議や職員会議、教職員一斉メール等を活用し、服務事故防止を徹底した。特に、個人情報管理(定期考査における答案の紛失防止)、体罰や不適切な指導の禁止(毎学期末に生徒及び教職員にアンケート調査と聴き取りを実施)に重点的に取り組んだ。事故のない職場を実現するため、今後も努力を重ねていく。</p> <p>[数値目標9] 在校時間が80時間/月を超える教員ゼロ →【B】月当たりで平均80時間超となった教員は、年度当初18名いたが年度末に9名と半減した。授業評価等のアンケート集計をFormsで行うなどのICT機器の活用など業務の効率化、ペーパーレス化による資料作成の負担軽減、議題の精選による会議時間の短縮、部活動指導員活用などで負担軽減、業務分担の見直しなどで、在校時間の短縮に取り組んでいく。</p>
<p>4 教育改革の動向を見据えた指導体制、内容の見直しを行う。</p> <p>《方策》</p> <p>①大学入試改革に対応した指導体制の見直し ②新学習指導要領を踏まえた指導内容・方法の改善・充実</p> <p>《重点目標》</p> <p>○ICT機器の運用力を高め、学習指導で生徒一人1台端末の活用方法の充実を図る。 ○学年進行で「観点別学習状況の評価」を行い、「指導と評価の一体化」の主旨を反映した取組を行う。</p>	<p>[数値目標10] 将来構想委員会等での検討 →【A】教科主任会を通じて観点別評価の実施状況についてクロス集計を用いて検証した。進学指導対策訪問で来校した指導主事らが他校に評価方法を紹介するなど、より適正な評価を行う素地ができた。</p> <p>[数値目標11] 生徒一人1台端末を活用した教育活動を実践 →【B】授業では課題の提出や教材の共有について、ロイノートの効果的な活用が見られた。また、大学の公開講座の告知など生徒全体への周知やアンケート集計などでTeamsやFormsの効果的な活用が見られた。</p> <p>[数値目標12] 全教職員の共通理解を図るための校内研修等の充実 →【B】年間10回の校内研修会を実施して、授業力向上や新教育課程、模試結果などの情報共有を図った。</p>

<p>5 本校の教育に理解と共感を抱く保護者、生徒の拡大を図り、挑戦意欲旺盛な生徒の獲得を目指す。</p> <p>《方策》</p> <p>①全校体制で広報活動を実践する。</p> <p>②委員会を中心に、効率的・効果的な広報活動を実践する。</p> <p>《重点目標》</p> <p>○本校への入学希望者の拡大</p> <p>○学校説明会の時期・形態の見直し</p> <p>○効率的な広報活動の開発</p>	<p>[数値目標13]本校への入学希望者の維持 (目標:推薦倍率3.50倍、一次倍率1.75倍)</p> <p>→【B】推薦に基づく選抜の応募倍率は2.95倍で、昨年度と比べて1.42ポイントの減となった。学力検査に基づく選抜の応募倍率は1.46倍で、昨年度と比べて0.37ポイントの減であった。</p> <p>推薦選抜では集団討論を再開したが、多くの学校で実施せず、受検生が敬遠する動きが見られた。夏季に学校見学会を15回実施し、広報委員会を中核に可能な限りで積極的な広報活動を展開し、特に生徒による学校紹介は受検を考えている中学3年生やその保護者に好評であった。</p> <p>[数値目標 14]ホームページ更新回数の維持(目標300回)</p> <p>→【A】ホームページの更新は、のべ 350 回更新した。部活動や修学旅行などの学校行事の様子など、日々の生徒の活動を順次掲載するとアクセス数が増加した。</p> <p>[数値目標 15]外部での学校説明会の継続実施</p> <p>→【A】校長が「学習塾等主催説明会」に13回参加した。また、今年度は「都立学校等合同説明会」に17名の教員で参加し、受検生やその保護者への個別相談を行った。</p>
<p>6 キャリア教育や国際交流事業の推進等を通して、変化する社会の中で次代を担う人材の育成を図る。</p> <p>《方策》</p> <p>①3年間を見通した系統的なキャリア教育の実践の推進、PTAや同窓会と連携したキャリア教育関連事業の充実を図る。</p> <p>②国際交流事業の体系化と教科等の学習活動との関連の明確化を図る。</p> <p>《重点目標》</p> <p>○職業的自立意識の醸成</p> <p>○国際理解の深化と国際協調の精神の涵養</p> <p>○グローバルリーダー育成研修の充実</p> <p>○姉妹校交流の推進</p> <p>○オリ・パラ教育の充実</p>	<p>[数値目標 16]訪問講義等文化事業の充実</p> <p>→【A】西高会(同窓会、PTA、学校)の教育支援事業委員会で、生徒の興味関心を高めるテーマ選択、講師選定を行い、昼休みの放送などで生徒に魅力を伝え、のべ1297名の参加者を集めることができた。</p> <p>[数値目標 17]ジョブシャドウの拡大</p> <p>→【B】4名の生徒が卒業生の勤務する病院での医療体験に参加した。</p> <p>[数値目標 18]国際交流事業の充実</p> <p>→【B】都教委主催の海外大学進学講座や次世代リーダー育成道場経験者と高校生との交流イベントである「Diversity Café」が開催され、意欲的な生徒が参加した。</p> <p>[数値目標 19]留学、海外研修等参加生徒の維持</p> <p>→【B】2年ぶりに首都圏公立進学校校長交流会主催の「スタンフォード大学研修プログラム」やインドネシアの姉妹校との交換留学による交流を実施し、生徒同士の活発な意見交換がなされた。安全確保を図りながら、今後も留学・海外研修を継続していく。</p> <p>[数値目標 20]アメリカ研修、GSP研修の充実</p> <p>→【B】コロナ禍以前の内容を再検討し、プログラムを再開した。</p>

	<p>GSP(グローバルスタディーズプログラム)は参加希望者が少なく中止せざるを得なかった。</p>
<p>7 考査や模擬試験等を通して「学習の手引き」の検証と改善を行うとともに、教科としての学習支援体制の一層の充実を図る。また、教科資料の共有化を図る。</p> <p>《方策》</p> <p>①各種試験の調査分析を実施する。</p> <p>②分析に基づく教科としての学習支援体制の充実を図る。</p> <p>③教材や課題プリント等の共有化を図る。</p> <p>④Society 5.0時代を踏まえ ICT 機器を活用した授業を推進する。</p> <p>《重点目標》</p> <p>○問題分析集の作成</p> <p>○検証に基づく教科シラバスの改訂、修正</p> <p>○補習補講の充実</p> <p>○教材の共有化</p> <p>○個人データの活用</p> <p>○探究活動の充実</p> <p>○デジタル技術の活用力を高め、生徒端末の活用方法の工夫</p>	<p>[数値目標 21]「教え方の工夫」に関する生徒肯定評価90%以上</p> <p>→【A】「教材や教え方の工夫」に関する学校評価アンケートで、生徒の肯定的な回答者数の割合は93.8%で、昨年度の93.4%より微増した。</p> <p>[数値目標 22]夏期講座、日常的な補習・補講の充実 (目標:夏期講座80以上)</p> <p>→【B】夏期講座は、講座の組み方などを工夫し、74講座(昨年度61講座)を開講した。</p> <p>[数値目標 23]大学入学共通テストにおける6教科18科目の平均点合計を全国平均合計で300点上回る。</p> <p>→【B】大学入学共通テストの6教科18科目の平均点合計で、全国平均点は昨年に比べてやや高かったため、全国平均を241.0点上回った。</p>
<p>8 三年間を見通した継続的・計画的な指導を通して、主体的に活動する生徒の育成を図るとともに、高い進路希望の実現を図る。</p> <p>《方策》</p> <p>①「年間授業計画」に基づき、計画的な指導を行う。</p> <p>②面談やホームルーム活動等を通して生徒理解に努め、生徒が意欲あふれる学校生活を送れるように支援する。</p> <p>③生徒の個人データや学年進路通信、進路ノート等を活用し、進路意識の啓発に努め、高い進路希望の実現を支援する。</p> <p>④探究活動を充実させる。</p>	<p>[数値目標 24]生徒の入学満足度95%</p> <p>→【A】「入学満足度」に関する学校評価アンケートで、生徒の肯定的な割合は、96.2%で目標を上回った。行事や部活動に対する制限が緩和され、学校生活に魅力を感じた生徒が多かった。</p> <p>[数値目標 25]保護者の入学満足度100%</p> <p>→【A】「入学満足度」に関する学校評価アンケートで、保護者の肯定的な割合は97.2%で、昨年度より2.5ポイント増加した。</p> <p>[数値目標 26]1・2年生の自宅学習時間2時間以上</p> <p>→【B】1年生の自宅学習時間は平均で2時間8分であり、昨年度の2時間3分と比較して微増した。2年生は平均で2時間11分であり、昨年度の2時間10分とはほぼ同様であった。今後も継続して課題の出し方の工夫等を行い、自学自習の定着を図る方策について検討する必要がある。</p>

<p>《重点目標》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○勉強と特別活動の両立 ○生活規律の確立と美化意識の向上 ○生徒理解の研修会の実施 ○自覚を促す進路指導の充実 ○「学習の手引き」の活用の一層の促進 ○個人データの活用 	<p>[数値目標 27]遅刻者数の減少</p> <p>→【B】学年での指導や遅刻指導月間の実施により、今年度も遅刻者数は減少傾向にあるが、遅刻を繰り返す特定の生徒に対して、継続して指導していく。</p> <p>[数値目標 28]美化に関する生徒の学校評価の向上</p> <p>→【C】「校内美化の取組」に関する学校評価アンケートで、生徒の肯定的な割合は54.4%で、昨年度の53.6%と比較して微増した。</p> <p>清掃活動にもっと力をいれるべきであるという生徒の意見を大切に、次年度以降も計画的に学習環境の整備に取り組んでいく。</p>
<p>9 特色ある教育課程のもとに教育環境を整備し、生徒の主体的・意欲的な学習態度を育成し、自学自習の習慣の定着を図る。</p> <p>《方策》</p> <ul style="list-style-type: none"> ①大学入試改革を見据えた年次進行での教育課程の検討 ②生徒の自学自習の態度を育成する。 ③進路部と協働して、三年間の生徒の学習実績を検証する。 <p>《重点目標》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○現行教育課程の成果・検証 ○学習ガイダンスの実施 ○生徒の自学自習を支援する体制の整備 	<p>[数値目標 29]年間の授業時数1000時間以上の確保</p> <p>→【A】昨年度は1学年1014時間、2学年1053時間であったが、今年度は1学年1020時間、2学年1054時間を確保した。</p> <p>[数値目標 30]将来構想委員会等で成果検証</p> <p>→【B】教科主任会や教育課程委員会を通じて、指導と評価の一体化や教育課程の再検討を行った。</p> <p>1日の家庭学習時間の減少と1日のスマホ利用時間の増加には強い相関が見られたため、進路部主任が家庭でのスマホ時間を減らすよう学年集会で生徒を指導し、保護者会では保護者に危機意識を共有してもらい、協力を依頼した。</p>
<p>10 生徒の高い進路希望を実現するために、進路情報や進路資料を整備し、段階的、系統的な進路指導を実施する。</p> <p>《方策》</p> <ul style="list-style-type: none"> ①進路通信や学年集会等を活用し、進路意識の啓発を図るとともに、緻密にして、系統的な進学指導を推進する。 ②進路指導室の進学指導資料の充実を図る。 ③学年との連携を図り、進路相談機能を充実する。 <p>《重点目標》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○蓄積された進路情報の分析と校内への周知 	<p>[数値目標 31]進路結果の分析会の実施</p> <p>→【B】引き続き、7月にベネッセ大学入学共通テスト模試分析会(3年)、10月に進研模試第1回ベネッセ駿台大学入学共通テスト模試分析会(3年)、11月に第2回ベネッセ駿台記述模試分析会(3年)、12月にベネッセ総合学力テスト分析会(1、2年)、3月に河合塾全統記述模試(1、2年)、河合塾学びみらいPASS(1年)、ベネッセ思考力テストGPS－Academic分析会(2年)、ケンブリッジ英語検定リングスキルの結果分析会を開き、生徒の学力の把握と理解に努めた。</p> <p>[数値目標 32]生徒の進路情報・進路指導満足度90%の維持</p> <p>→【A】「進路情報の提供」に関する学校評価アンケートで、生徒の肯定的な割合は93.3%で、目標を3.3ポイントほど上回った。年間で38回発行した「進路部便り」の活用を進めるなどの対策を継続していく必要がある。</p>

<p>○教師用の進路資料の充実 ○現行の進路指導計画の検証 ○新たな進路データベースの円滑な運用</p>	<p>[数値目標 33] 自習室利用の維持、チューター利用の増加 →【B】西高会館の自習室利用は3050名で、昨年度に比べ400名減少した。チューター利用者は295名で、昨年度に比べ140名増加した。</p>
<p>11 多様な部活動や学校行事を通して、主体的に取り組む生徒の育成を図るとともに、規律ある学校生活の中で、逞しく生きる生徒の育成を図る。</p> <p>《方策》</p> <p>①活気に溢れる中でも規律ある学校生活を推進する。 ②行事・部活動等の支援体制を整備し、目的と規律のある特別活動の一層の充実を図る。</p> <p>《重点目標》</p> <p>○真の「文武二道」に向けた指導体制の確立 ○規律ある学校生活の確立 ○目的意識や課題意識のある生徒の育成 ○進化する学校行事の実践</p>	<p>[数値目標 34] 部活動加入率100% →【A】活発な部活動が行われているが、兼部の生徒も含めた部活動・同好会・サークルへの加入率は183%となり、数値目標を達成した。今後も継続して文武二道の完遂を指導する。</p> <p>[数値目標 35] 遅刻者数の減少 →【B】学年担任からの継続的な指導や年間3回の遅刻指導月間の実施により、今年度も遅刻者数は減少傾向にあるが、遅刻を繰り返す特定の生徒がいるため、継続して指導していく。</p> <p>[数値目標 36] 遺失物等の減少 →【B】生徒の貴重品や私物の管理は、生徒部や学年の指導を通じて改善に努めているが、今後も、ロッカー施錠の励行など、私物管理の徹底などの指導を継続していく。</p> <p>[数値目標 37] 学校行事への生徒の取り組みに関する評価90% →【B】ほぼコロナ禍以前の形態で学校行事が実施することができた。「学校行事への取組」に関する学校評価アンケートで、生徒の肯定的な割合は90.4%であった。</p>
<p>12 生徒の自己管理能力を育成し、健康で安全を心がける生徒の育成を図る。</p> <p>《方策》</p> <p>①生徒による主体的な活動を支援し、校内の美化や衛生の改善に努める。 ②スクールカウンセラーらの活用を通して、生命尊重と思いやりの心を育む。</p> <p>《重点目標》</p> <p>○校内美化の徹底 ○生徒理解の深化</p>	<p>[数値目標 38] 校内美化に関する学校評価を上昇 →【B】「校内美化の取組」に関する学校評価アンケートで、生徒の肯定的な割合は54.5%で、昨年度の54.4%とほぼ変わらなかった。清掃活動にもっと力をいれるべきであるという生徒の意見を大切にして、次年度以降も計画的に学習環境の整備に取り組んでいく。</p> <p>[数値目標 39] 生徒理解の研修会の継続実施 →【B】教員間の生徒情報交換と、SCを含む生徒理解の研修会を合計4回実施した。</p> <p>[数値目標 40] スクールカウンセラーとの相談件数の維持 →【A】相談は通年行われ、生徒・保護者・教員の相談件数は157件で、昨年度の94件と比べ増加した。</p>

<p>13 P T A、同窓会をはじめ地域や社会教育と連携することにより学校支援体制を整え、教育環境・条件の改善整備に努める。</p> <p>《方策》</p> <p>① P T Aや同窓会との連携を深め、教育環境の整備を推進する。</p> <p>② 学校運営連絡協議会の円滑な運営</p> <p>③ 文化事業の円滑な実施</p> <p>《重点目標》</p> <p>○ P T Aや同窓会による生徒への支援活動の円滑な実施</p> <p>○ 文化事業の工夫</p> <p>○ 学運協をはじめ外部の意見を校内に周知</p>	<p>[数値目標 41]保護者の入学満足度100%</p> <p>→【A】「入学満足度」に関する学校評価アンケートで、保護者の肯定的な割合は97.2%で、昨年度より2.5ポイント増加した。</p> <p>[数値目標 42]訪問講義への生徒参加の増加</p> <p>→【A】西高会(同窓会、PTA、学校)の教育支援事業委員会で、生徒の興味関心を高めるテーマ選択、講師選定を行い、昼休みの放送などで生徒に魅力を伝え、のべ674名の参加者を集めることができた。</p>
<p>14 校内や生徒の端末機器の管理や運用全般について他分掌をリードし、校内のD Xを推進する。</p> <p>《方策》</p> <p>① 都教委からの指示に基づく校内端末機器の適切な管理・運用を推進</p> <p>② 校内での ICT 機器の活用推進</p> <p>《重点目標》</p> <p>○ 関係部署との連携</p> <p>○ 業務の効率化、省力化</p> <p>○ 校内運用に係る書類の一元整理</p>	<p>[数値目標 43]生徒一人1台端末の利用実績向上</p> <p>→【B】教科に関する課題提出や質問を受ける際にロイロノートを用いており、総合的な探究の時間などにも利用は広がっている。BYOD 係を選出し、一人1台端末の使い方の西高タブレットマナーを作成し、利用と管理方法を徹底している。また、生徒への連絡ツールとして Teams を用いており、利用頻度が増加している。</p> <p>[数値目標 44]教員の教育活動への活用向上</p> <p>→【B】校内研修を年度当初など計画的に実施し、特にロイロノートの授業への活用は進んでいる。また、企画調整会議をロイロノートを活用してペーパーレスで行っている。さらに、生徒向けの連絡は Teams で、保護者向けの連絡や欠席連絡は Classi で行い、定着している。</p>
<p>15 計画的な予算執行と校内関係部署との連携により、円滑な教育活動を支援するとともに、温かい窓口業務を行う。</p> <p>《方策》</p> <p>① 業務内容に応じて、日頃から管理職や関係教員との連携を心がけ、円滑な実施を可能にするとともに、業務の省力化を推進する。</p> <p>② 丁寧で温かい窓口業務を行う。</p>	<p>[数値目標 45]令和5年度予算大綱を10月当初までに決定</p> <p>→【A】予算大綱である予算編成指針を、今年度は10月初旬に決定した。</p> <p>[数値目標 46]自律経営推進予算の執行を第2四半期終了までに65%を目指す。</p> <p>→【B】自律経営推進予算の第2四半期終了までの執行率は57%であった。今年度特有のコロナ禍におけるもので、年度末の執行率はほぼ100%となっており、管理職・教員と経営企画室の密接な連携を図り、円滑な業務を継続して行うことで、数値目標の早期達成を目指す。</p>

<p>《重点目標》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○関係部署との連携 ○業務の効率化、省力化 ○計画的にして効率的な予算執行 ○施設の老朽化に対する対応 	
--	--

次年度以降の課題	対 応 策
<p>【学習指導】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①新学習指導要領への対応 ②学習クラウドの活用 ③ICT 機器の有効活用 ④都立学校統合型校務支援システム (C4th) の有効活用 ⑤都立学校統合型校務支援システム (C4th) を運用できる人材の育成 	<p>【学習指導】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①新教育課程において指導と評価の一体化が実現されているかについて検証していく。 ②他校の実践例等を参考にしながら、学習クラウドの活用を研究し、実践・普及を図っていく。 ③教員の相互授業参観や校内研修を通じて、ICT 機器を有効活用した授業改善への取組みを推進する。 ④学習活動の基礎データの管理・蓄積について都立学校統合型校務支援システム (C4th) の具体的な活用法を開発する。 ⑤都立学校統合型校務支援システム (C4th) を運用できる人材の育成を進める。
<p>【生活指導】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①活発で適正な部活動の推進。 ②遅刻常習者の減少。 ③交通事故の防止。 ④防犯上の安全確保。 ⑤SNS の適切な使用。 	<p>【生活指導】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①部活動の活性化を目指す一方で、都のガイドラインに基づいて適正な運営を行うとともに、部活動指導員を活用して顧問教員の負担軽減を図る。 ②遅刻指導を年3回実施して遅刻常習者の把握と指導を行う。 ③各学年での交通安全指導、ヘルメット着用及び自転車保険加入の推進などにより交通安全の意識を高め、交通事故を防止する。 ④ロッカー利用の推進や通年の校内巡回などで、防犯体制を維持・強化する。 ⑤ネット上のトラブルの防止に向けて SNS の適切な使用について、情報の授業や安全教室などを通じて指導する。
<p>【進路指導】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①探究学習の改善。 ②英語の4技能型外部検定試験の結果分析と活用。 ③チューターの活用。 ④第一志望校を諦めない指導。 	<p>【進路指導】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①同窓会と一層連携を強化し、外部人材を活用することによって、課題研究において専門家から生徒が助言を得る機会を設ける。 ②既に英語の4技能型外部検定試験の結果等に基づいて年5回のスピーキングテストを導入しているが、継続して4技能育成の指導を行っていく。 ③科目選択や定期考査前等の時期に、ミニ講座等を開くなどでチューターの一層の活用を図る。 ④卒業生を活用したキャンパスツアーや講演会の実施により、志望大学への理解を深化させて、最後まで第一志望を諦めない進学指導を行う。

<p>【保健美化指導】</p> <p>①ゴミの減量化の取組み。 ②美化清掃の改善。 ③教室および廊下ロッカーの上の私物や備品の整理。 ④粗大ゴミ処分。</p>	<p>【保健美化指導】</p> <p>①運動会や記念祭でのゴミ減量化を一層進めるとともに、減量化の意識を更に高め、生徒に積極的な実行を促す。 ②生徒の美化意識を向上させるとともに、担任や担当教員が日々指導する。また、分別意識を高める活動を、美化委員会を中心に展開する。 ③生徒の持ち物の管理方法について継続検討する。 ④粗大ゴミの計画的処分を進める。</p>
<p>【学年における指導】</p> <p>①肯定的に自己を捉え、自主的かつ臨機応変に活動する力の育成。 ②1・2年次での確実な学力定着と3年次での読解力・記述力の育成。</p>	<p>【学年における指導】</p> <p>①本校で実施される土曜講座や各種講演会、訪問講義等の活動へ自主的に参加するよう促し、その取組成果を生徒が共有できるように工夫する。 ②補習や講習の実施により、苦手科目を作らせない学習指導を行う。記述模試や思考力テストの活用と検証を進める。</p>
<p>【防災教育】</p> <p>①「地域と連携した防災体験活動」において、講話や体験活動内容・避難訓練の実施形態など、次年度に向けて計画していく。</p>	<p>【防災教育】</p> <p>①地域・諸機関・該当学年と相談し、「地域と連携した防災訓練」の実施計画を策定する。</p>